

2026年3月発行



防火作文集

防火作文の作品集は火災予防啓発の一環として、市内の各小学校へ配布しています。今年は市内**13**校から4年生児童**321**名の応募がありました。この文集はその作品の中から選出された入賞作品**14**点（最優秀賞1点・優秀賞6点・優良賞7点）を掲載しています。

今後も、小学4年生を対象に募集しますのでたくさんのご応募お待ちしております。

〔最優秀賞〕

わたしができる防火について

大坪小学校 井手 心菜

わたしが防火について考えるようになったのは、大分の大ききぼ火さいがきっかけです。火事はいつ起こるか分からず、わたしたちの身近なところにもたくさんきけんがあるとお母さんに聞きました。今まで火事は遠い出来事だと思っていたので、少しドキドキしました。

学校では防さい訓練があり火事が起きたときのにげ方を先生たちが教えてくれました。けむりをすわないようにハンカチや服で口をおさえて、体を低くしてにげることが大切だと知りました。火事は命をうばうかもしれないので訓練もしんけんに取り組むようにしています。

家に帰ってから、わたしは、家族に防さい訓練で学んだことを話しました。すると、お母さんたちが「火を使うときは、必ず大人がそばにいるときに使おうね。」と言いました。それから、家族で火事が起きたらどうするか話しました。わたしの家は2階がキッチンなので、キッチンで火さいが起きたらあわてず1階におり

て家の外にひなんしようねとなりました。今まで話したことがなかったので、とても大切な時間になりました。

火事はたくさんさんの命や大切な物をいっしゅんでうばってしまいます。だからこそ毎日の小さな注意がとっても大事だと思います。

わたしはこれから火の近くで遊ばないことやコンセントのまわりをきれいにすること、使わないコンセントはそのつどぬいて火事が起きないように気をつけていきます。そして防火の大切さを友達や家族にも伝えていきたいです。みんなが気をつけることで、火事をふせぐことができると思います。

これからも家族と声をかけ合いながら防火を続けていきたいです。



〔優秀賞〕

ぼくにできる防火

大坪小学校 古賀 凜太郎

「また、火事のニュースがあつてるね。」
最近、やたらと火事のニュースがあることが気になっていました。火事の広がり方が、とても大きくて、びっくりすることが多かったです。これだけ便利な世の中なのに、火事はなぜ起きるのだろう。

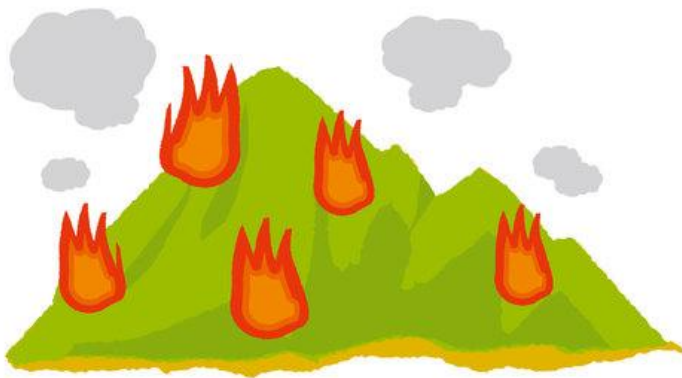
最初は小さな火事でも、そのときに風が強くふいていたら、火の粉がまっつて、どんどん火がもえ広がっていきます。すると、思つてもいないぐらい大火事がおこってしまうことを知りました。小さな火の粉が風にまっつてとびちっていき、葉っぱや木などにつくと、どんどん大きな火になっていくのを見ると、とてもこわかったです。どれだけ、消防車で放水しても、火が消えるまでに時間がかかってしまうこともあり、大変だと思いました。

子どもだけの時は火を使わないことや、火を使う時は、大人がいること、火の近くにもえやすい物をおかないなど、注意しないといけないことを学びました。火事はちよつとした不注意からお

こることだと思つるので、しっかり気をつけようと思ひました。
ぼくの家では、外出する時、必ずコンセントをぬくようにしています。また、ほこりがたまらないように、こまめにそうじをするこゝも心がけています。

ぼくのお友だちのお父さんやおじいちゃんも昔、地いきの消防団として、かつやくしていたそうです。火事があると、夜中でも出動しないとけいけないので大変だつたと思ひました。

一人一人が火事を出さないようにすることや火事から自分たちの命を守るようにしましょう。



〔優秀賞〕

わたしが火で学んだこと

立花小学校 堀内 萌加

わたしが、じいじとばあばの家の木や竹のかたづけをして、もやした時わたしは、もやした竹が、真っ黒だったのでもえてしまつてると思つてさわつたらあつくてやけどしてしまつておどろきました。まっくろになつてもまだ、あついとわかりました。きえてると思つてもきえてないんだとびっくりしました。

だから対策としては最後に水をかけた方が、いいんだと思いました。そして水をかけないでそのままにしていると火事になるんだと、学びました。そのほかに、家で火事になるおそれがあるなと思つたのがばあばの家にあるガスコンロです。火をかけたまま他の事をしていたとき鍋をまっくろにこがしてしまつたとさわいでいるのをみたことがあります。これもそこで気がつく事がなかつたらお家までもえてしまう大変きけんなことだと思ひます。これも対策としては、タイマーをかけておいたり火をちゃんと消してから他の事をしたほうがよいと思ひました。このように色々な所で火事がおこつてしまう原因はあるのだと思ひます。自分が

気をつけておくこと、注意すること、火のもとになる事のきけんを考へて、こうどうするのが大切なのだと思ひます。

「マッチ一本火事のもと」と、町の人たちが家のまわりのみまわりをしてるこうけいをテレビで見たことがあります。

夜に「カーンカーン」と音がきこえたので母に何の音かとたずねたら消防団の人たちが町をまわつて防火意識をするためだとききました。町の人たちも色々な方法で火のようじんをしているのだと学びました。このように自分だけではなく町の人たちの防火意識で火事がたくさんおこらずにすんでいるのだと考へることができました。



〔優秀賞〕

防火について考える

黒川小学校 中島 圭汰

まず、「防火」と言う言葉の意味をインターネットで調べて見ました。火災の発生を防ぎ、万が一発生した場合でもひ害を最小限におさえるための取り組みだそうです。

去年十一月十八日大分県大分市佐賀関という場所で百七十棟以上の建物が焼損する火事が発生したというニュースをテレビで見ました。とてもたくさんの方がけむりに包まれていてとてもおどろきました。たくさんの方がひなんをしてすむ家がなくなつてとてもかわいそうだと思います。自分がすんでいる地いきで火事がおきたらとても怖いのです。

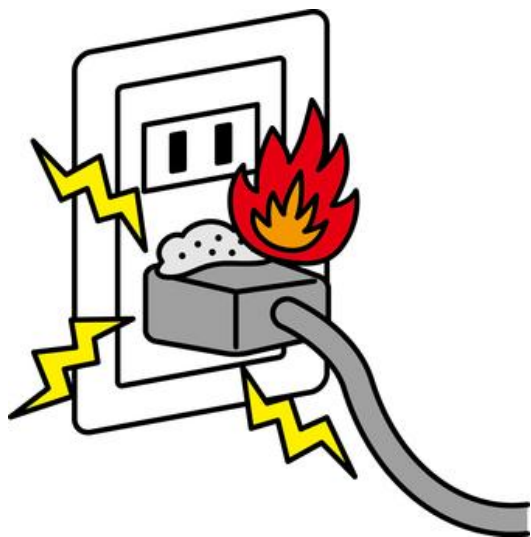
火事の原因で多いのは「たばこ」「たきび」「コンロ」の順です。あと、電気き器や配線器具もこの数年でふえているそうです。

先日、お父さんがかんそうや冬場は火事が多いので家中のコンセントやはい線の点検んをしてくれました。これはまい年してくれています。き険だった場所は、おじいちゃんの寝室とペットを飼っていた部屋でした。物がたくさんあって、そうじができてい

なくてほこりやペットの毛がたくさんありました。ほこりはしつ気や油分とまざることで電気をとおしやすくなり火事の原因になるそうです。

お父さんがそうじとコンセントプラグのこうかんをしてくれてきれいになりました。

今までは、なんのためにしているのかわからなかったけど、テレビやインターネットを見て家のいろんな所に火事の原因があることを知ることができました。ふだんから学校や家の中でも火や電気の場合は、防火という言葉の意味を思いだして、火事がおこらないように点検やそうじをして、みんなが安心して生活できるようにしていきたいです。



〔優秀賞〕

火災をおこさないようにできること

東山代小学校 草野 和花奈

わたしは、いままで火災を見たことがなく、ニュースでは見たことがありました。でも少し前にダイレックスで火事がおこっているのを初めて目にしました。そのときには、火がまっかでないなと思いました。そのような火災がおこらないようにわたしは、3つのことを気をつけようと思いました。

1つ目は、ストーブについてです。令和元年から令和5年までのストーブの火災は約300件ぐらいだそうです。ストーブでの火災を少しでもへらすためにわたしは、ストーブのちかくにもえやすい物を近くに置かないようにします。

2つ目は、電気コードについてです。よく家庭やいろんなところで使用する物ですがこのようなことで火災がおこったりするそうです。たとえばコンセント部分にほこりがたまっていて、タコ足配線をしている。コードを束ねて使用している。などお家でよく使うからこそほこりがたまっていないかをみたり使っていないコンセントをはずしたりしたいです。

3つ目は、火遊びについてです。よく夏に花火をしたりしますが、いっけん安全でたのしそうにみえますが、まちがった使い方をすると火災につながります。そのためには、大人といっしょにする。人目に付きにくい場所では、あまりやらないなどに気をつけたいです。このようなみじかなことで火災につながったりするので火や電気は、大人のいるところで安全に使いたいなと思いました。



〔優秀賞〕

ぼくの母が体験したこと

立花小学校

幸松

芯

ぼくの母がねんちょうのころ、家がかじになったときの話をしてくれました。夜中に電気のろう電が原因で、火事になったそうです。

自分の家でも、たくさんのコンセントを使っていて、とても心配になります。家をもえたとき、家族全員が二階から下にふとんを投げてクッションがわりにして飛び下りてにげたそうです。とてもこわいなと思いました。

にげてから、家が全部もえている所を見てなに一つ残らない、思い出がなくなっていくと母は話していました。にげてきたから、何も持ってこなかったため、生活ができなくなる不安が残ったそうです。この話を聞いて、くるしいし、かなしいし、かわいそうだなと思いました。そして住む家がなくなり、おばあちゃんの家に住むことになったそうです。着る洋服も一枚もなく、小学校と中学校からたくさん洋服やもうふをいただいたそうです。地いきの方にたくさんよくしてもらって生活できるようになって感

やしていますとのことでした。みんなやさしくていい人だなと思いました。

この火事の話聞いて、火事のこわさがよくわかりました。火事の原因には、コンロやストーブ、こたつ、ろう電などありますが、ぼくたちは、火事にならないように気をつけて生活をしていきたいと思います。火事がおきると、家や大切な思いでがなくなってしまう。ぼくたちは火をつかうときに必ず、大人といっしょにかくにんしていききたいと思います。



〔優秀賞〕

ぼくに出来ること

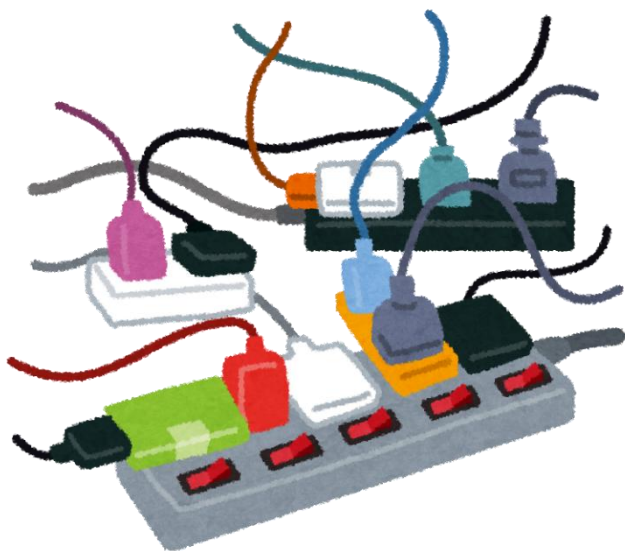
大川内小学校 内山 倅輔

ぼくは、テレビで「たこ足配線」が原因で火事が起こったというニュースを見ました。たこ足配線とは、コンセントにたくさん電気の線をつなぐことです。たくさん電気製品を同時に使ったことで、火が出てしまったと知り、とてもこわくなりました。

ぼくはゲームが好きで、ゲーム機の充電をよくします。家族もスマートフォンを充電していて、時々、家族とコンセントの取り合いになることがあります。ぼくは、家の中にはテレビやすいはいんきや洗たく機などのたくさん電気製品があることに気が付きました。ぼくは、たこ足配線にならないように、使わない時はプラグをぬくように気を付けたいと思いました。このことを家族に話すと、お母さんがコンセントにたまったほこりが、火事の原因になることを教えてくれました。だから、ぼくは年末にコンセントにたまったほこりをとる掃除の手伝いをしました。そして、掃除が終わったとき、ぼくは、火事の原因になるかもしれないものをなくすことが出来て、不安な気持ちが少し軽くなりました。

ぼくは今まで、自分の家では火を使うことがないので、火事にはならないと思っていました。だけど、防火について考えたことで、火を使わなくても、電気の使い方しだいで火事になる可能性があることに気付くことができました。

もし、火事が起きてしまったら、家族や今までの思い出がなくなってしまうです。だから、ぼくは、ぜったいに火事は起きてほしくないと思います。火事の原因は身近なところであり、ぼくにもできる防火対さくがあることが分かったので、これからは、ぼくも家族の一員として、できることをがんばろうと思いました。



〔優良賞〕

思い出や命が燃やされないように

できること

東陵学園 吉田 祈冬

私は、ニュースで飲食店やアパートの火災を見ました。最近家や山火事で人が命を落とすのが多い事が問題になっています。

それから私は、どうしたらこのような火災を防げるのか考えました。

家族、また自分に思い出や命を燃やされないようにできることは、料理中に目をはなさず、火を使わないときは消して、出かけたりする前に火を消しているか、かくにんして、コンロやヒーターの近くに服やぬのを置かないことです。

学校や地いきでできることは、ひなんくんれんに参加してあぶない所をかくにんしておくことです。

この問題を解決するために、わたしにできることは、火の坎りをもっとしっかりとすることです。例えば、火をつけている間は、火をしつかり、ずっとみていることです。ようじができた場合は、いっしょにいる人に変わってみてもらいます。それでもいっしょ

にいる人がいないのならば火をとめて、何回かかくにんして、ようじをすませます。

これからは、思い出や命を燃やされない、火災の少ない伊万里にしたいです。



〔優良賞〕

自分自身でふせげる防災について

東山代小学校 中村 莉桜

私は、何か自分でたいさくできることはないか考えてみました。二つあります。

考えたことの一つ目は、「コンセント」についてです。私は、家で弟といっしょにテレビを見ていた時に、「火のもと」というものがでてきました。そのチャンネルをおしてみると、「コンセント」のどこを中心に話を聞いてみると、①コンセントのつけすぎは、よくない。ということでした。たとえば、あちこちにコンセントをつけていると「バチバチ」と音がなり、そこから火事につながるということでした。だから、コンセントをつける時は、どれかをはずすとふえることがないとおもいます。

考えたことの一つ目は、「ストーブ」についてです。さいきんさむくなってきたので、ストーブを出す家がふえてきたとおもいます。ストーブは、毎年大きな火事になっています。私のいとこの家が今年火事になってしまいました。内ようは、ストーブがげんいんでストーブの上においてあったふくといっしょにもえてしま

ました。私のいとこの家は、少しかわっていて、キッチンやリビングが二かいにあります。一かいでもえたので、だいじなものとかには、いじょうがありませんでしたが、そのじこのせいで、人がなくなったりしています。だからストーブをつけて外出するのは、だめ。だからストーブをけしてでかける。ということに気がつけて生活をすると思います。

あらためて、コンセントをつけすぎないことと、ストーブをつけたままの外出はだめだということをこれからの生活で、いかしたいと思います。



〔優良賞〕

火事の本当のこわさ

伊万里小学校 松永 翔

ぼくは、火事について考えました。最近ニュースで見たのは大分県佐賀のせきで百七十けんがもえる大火事で、何日ももえました。去年は佐賀県伊万里市でも火事がありました。

ぼくが初めて見た火事は伊万里市の火事です。野球の練習中にけむりのおいがし、すこしうすぐらくなっていました。現場は近くではなく、はなれたところでした。

そこでぼくは、火事に気をつけたいことを考えました。

① コンセントのほこりをとる。

② 火遊びをしないこと。この二つです。

でも火事をふせぎたくてもふせげないこともあります。その時は、あせらずに「おかしも」を守ることが大事です。

そのためには学校でもあるひなん訓練から真面目に取り組むことも大事です。ですが、実際の火事には、もつとこわいことがあります。それは風でどんどんもえうつっていくことです。だから冬は火事が起きやすいです。ぼくは、昨年大分県の佐賀のせき

でおきた火事で風でたくさんうつるんだなと思いました。

火事では家もえて家の中ももえてほぼほぼのこりません。命もあぶないこともあります。そんな事はいやだけどただこう思っているのはぼくだけじゃありません。

そのためにはみんなで協力することも大事です。

火事は今まででたくさんありました。しかし、それらの中にもたくさんふせげた火事もあつたはずです。防火の方法は多くあります。これからは火事に気をつけていこうと思いました。

火事は消防士の人が全て火を消すのではなく消防士の人がくる前にすこしでも火を小さくするなどのいしきを心がけてこれからの生活を送っていこうと思います。



〔優良賞〕

自分たちでできること

山代西小学校 通山 笑育

みなさんは、火事になりそうになったことはありませんか。わたしはあります。それは、おばあちゃんの家のヒーターの近くで、弟と遊んでいた時でした。もうふでたたきあいつこをしていたときに、もうふの先っぽがヒーターの中に入りました。そしてその先っぽから、ちよつとけむりがでてきました。ビクツとしてすぐもうふをひきました。ちよつと茶色くなっていました。火事にならなくてよかったけど、こわくてもうふをひいていなかったら火事になっていたかもしれせん。わたしは、こわい気持ちと安心した気持ちが心の中でまざっていました。火事って本当にこわいなと思いました。

そのあと火事にならないようにどうすればいいか考えました。まずヒーターや、ストーブの前では遊ばない、はしやがないことが大事だと思えます。もしもヒーターやストーブになにかが入ったらすぐとる、ひく、大人に知らせるのが大事だと思いました。また、学校のひなんくんれんをまじめにやるのが大事だと思いま

した。

今回、防火作文を書くために、これまでの自分の生活と火事についてふり返って、火事は人の命をうばうこともあるので、ぜったいにおこってほしくないと思いました。これからは、火をつかう道具をつかうときは、大人とつかったり、ようじんしたりしてつかっていいこうと思います。



〔優良賞〕

火事から身を守るために

牧島小学校 江口 杏菜

わたしの家は火事になったことはありません。しかし、もしも火事になってしまったときは、学校のひなん訓練で学んだことを守ってひなんすると良いと思います。

まず、一つ目は「おかしも」です。「おかしも」の「お」は「おさない」です。火事が起きたときにもあわてずに、おちついてひなんします。「おかしも」の「か」は「かけない」です。一人でも走ってしまうと、人にぶつかってにげおくれる原因になるかもしれないからです。「おかしも」の「し」は「しゃべらない」です。みんながしゃべってしまうと、先生や大人、ひなんの指示など大事なことを聞けないかもしれないからです。「おかしも」の「も」は「もどらない」です。大事なものをおいてきてしまったとしても、もどらずにひなんします。

わたしはひなん訓練のときに、しゃべってしまったことがあります。もしも、本当の火事だったら、大切なことを聞きのがしてにげおくれていたかもしれません。学校以外で、もし火事があつ

たら「おかしも」を守ってひなんしようと思いました。

二つ目は、火をつけたまま外出しないことです。ガスコンロやストーブなど火がちゃんと消されていることをかくにんしてから出かけるようにしたいと思います。

ひなん訓練で学んだことをしっかり守ってこれから生活していききたいと思います。そして、もしかしたら自分の身の回りで起こるかもしれない本当の火事にそなえて、これからも真面目に真けんひにひなん訓練に取り組んでいきたいと思いました。



〔優良賞〕

火事を防ぐために

伊万里小学校 大野 駿

最近、山火事が多いです。しかし家でも火事になりそうになったことがあります。あと火事をみたこともあります。そんな火事を防ぐために考えてみました。

「気をつけたいこと」

- ① じゅう電機をつけっぱなしにしない。
つけっぱなしにするとじゅう電機にホコリがたまって火事になることがあります。そのためにホコリがついていたらティッシュなどでとりたいです。
- ② 火遊びを子どもだけでしない。
子どもだけで火遊びをすると火事になるおそれがあります。とくに花火などはきけんです。マッチなど火がつく物をさわらないようにしたいです。
- ③ ドライヤー、せんぷう機、湯をのせているヒーターなども火事になるおそれがあります。ドライヤーをずつかみにあてていると火事になることもあります。せんぷう機は、モーターがこしょ

うしてなることもあります。

とくに電気せい品などが火事になるもとだと思えます。もし家、学校、店などたて物の中で火事が起こったらけむりをすわないようにしやがんでにげるようにする。けむりは、上に登って行くからアヒル歩きとかがみ歩きをしてひなんしようと思えました。もし家で火事が起こったらひなん訓練のようににげるようにします。



〔優良賞〕

これから防火のために

気をつけたいこと

伊万里小学校 友田 星來

わたしが最近知った火事のニュースは、香川県坂出市のせいめんじよけんじゆうたくでの火災です。81才のだんせいがかむりにまかれて軽いやけどを負いましたが命に別状はなく、消防が約1時間40分で消火しました。

自分が防火のために気をつけたいことは、火をそんなに使わないようにして、自分のことは、自分ですることを気をつけたいです。

家族によびかけたいことは、「火をつけっぱなしでどこかにいかないで」や「これは、火の前におかないで」とかを家族によびかけたいです。

家で気をつけることは、ヒーターや火をつけっぱなしにしないようにして、ヒーターの前にもものをおくと火が急にもえあがってきてそのものがもえて火事になりやすいからヒーターの前にもものをおかないようにして、コンロとかヒーターに火がついていて

どこかうごくときは、1回1回火をとめて火事がおきないようにして家では、それを気をつけたいです。

学校で気をつけることは、学校でもしかじがおきたとき、1人だったらきけんだしなにしたらいいかわからないから、なるべく友だちのちかくでこうどうするようにして、かじがおきたときは、先生のいうとおりにしたがうようにするために、じゆぎょう中先生の話をしっかりきいてかじがおきたとき安全にひなんするように学校で気をつけます。

自分の体験から考えたことは、けむりがへやじゆうきたときにげだすためには、たいせいをひくくして口をおさえてでないとなち上がったらけむりにまきこまれてしまうからいわれたとおりにしないときけん。ということを考えました。

これから自分は、ヒーターやコンロをつけっぱなしにしないようにしてそれは、しっかりかぞくにつたえてかじがおきたときに、しっかりよく話をきいて伊万里が安全にへいわにこれからしたいです。わたしは、考えたことは、かぞくに、すぐつたえたいです。

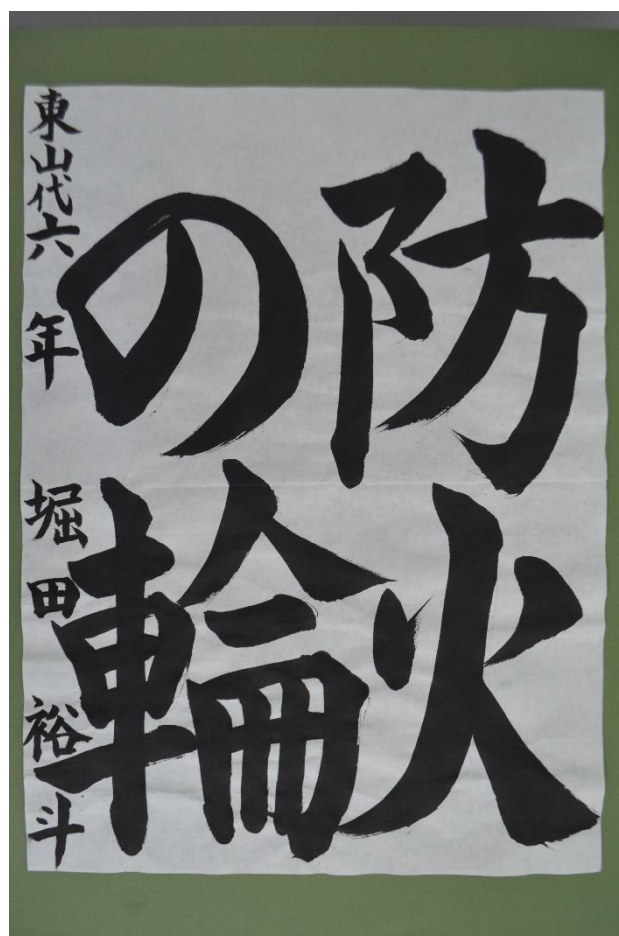




防火ポスター 最優秀賞

伊万里市立牧島小学校

川原 咲愛さんの作品



防火書道 最優秀賞

伊万里市立東山代小学校

堀田 裕斗さんの作品

主催：伊万里・有田地区幼少年女性防火委員会

協賛：伊万里市防火協会

編集：伊万里・有田消防組合 伊万里消防署 消防3課 予防係

【問い合わせ】

伊万里・有田消防組合

伊万里消防署 消防3課 予防係

〒848-0027

伊万里市立花町1355-3